

# 石川県立美術館だより

平成14年10月1日発行 第228号



県文 櫻鳥図 松花堂昭乗筆  
江戸時代 17世紀 瑞龍寺蔵

## あつ利家

加賀百万石物語

- 前田家と加賀文化 -

9月14日(土)~10月27日(日)会期中無休

### 目次

利家とまつ 加賀百万石物語展 .....	2	美術館の本、県美Q & A、図書閲覧室NOW...6	
常設展示室 主な展示作品 .....	3	企画展TOPIC(脇田和展) .....	7
「利家とまつ」展関連事業 .....	3	十月の行事案内、各地の展覧会 他 .....	7
美術館小史・余話(27) 展覧会回顧 他 .....	4	所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信 ...8	
第32回文化財現地見学、企画展示室 .....	5		

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

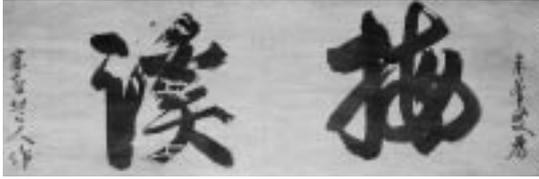
企画展示室(第7~9、2展示室)

# 利家とまつ 加賀百万石物語展

## 前田家と加賀文化

9月14日(土)~10月27日(日)会期中無休

主催/石川県立美術館・(株)金沢放送局・(株)中部ブレイズ  
 共催/北國新聞社 後援/文化庁 特別協力/財団法人前田育徳会  
 制作協力/(株)プロモーション 協力/JR西日本  
 協賛/ハウス食品株式会社



墨蹟 梅溪字号 宗峰妙超(大燈国師)  
 財団法人五島美術館蔵

信長や秀吉に仕え、天下統一のために努力した利家も、その功績により次第に政治的地位が確立してくる。天正十年(一五八二)頃から、名だたる茶人が催す茶会に名前を見せるようになり、また利家自身も茶会を催し、茶の湯の名品を飾るなど晩年十年ほどの間に、茶の湯を通して当代一流の文化教養人として認められていった様相がうかがわれます。

一方、利家夫人であった「まつ」も、今日御物となつて「桂本万葉集」を早くから所持したことが知られているように、和歌、絵画、書などをよくし、文物に深い関心を寄せた女性でありました。

利家の跡を継いだ二代藩主利長は、利休七哲の一人と知られ、利家が客将として迎えた高山右近から茶の湯を学び、領内の美術工芸の育成に力を注ぐなど二人の資質を受け継ぎますが、いわゆる加賀文化の確立に積極的な役割を果たしたのは、利長の異母弟で利家の四男であった三代藩主利常でした。利常の夫人「珠」は、後水尾天皇の女御「和」の姉であった関係から、京都の寛永文化を担っていた人々との交遊を通して京文化を吸収、長崎を通じての海外の文物の収集、茶の湯の振興、美術工芸の育成など、今日の金沢を中心として育まれている伝統文化の礎は、この利常の時代に完成されたと言えます。

今回は、第一部「加賀文化の確立」の展示構成を主に紹介いたします。

### 第一章 利家と利長の時代

加賀文化は利家が種を播き、二代利長が育て、三代利常が大きく実らせたともいえます。ここでは利家と利常が収集し、あるいは周辺人物との交流の中での美術工芸品、関連資料を紹介します。

主な展示作品(●国宝 重要文化財 重要美術品 県文化財 市町村文化財)としては、秀吉との深い交遊を示す「醍醐花見屏風」(北野大茶湯図巻)、そして北野大茶湯に出陣され、後に秀吉に献じられて利家が拝領した「大名物 唐物茄子茶入 銘富士」、肥前名護屋に布陣した折、博多の茶人神谷宗湛を招いたとき床に掛けられた定家筆「小倉色紙」、

家康から利家に贈られたといわれる玉潤筆「洞庭秋月図」、茶人利休との交遊を示す「千利休自筆書状 筑前宛」とゆかりの「唐物肩衝茶入 利休小肩衝」、「瀟灑釜」などを展示します。

### 第二章 利常の時代

ここでは、後水尾天皇をはじめ、小堀遠州、本阿弥光悦といった京文化人との交流、東山御物や平安時代の古筆の名品、長崎を通じての舶載品など、利常の加賀文化形成の足跡をたどる展示となっております。

主な展示作品としては、平安時代の古筆「●十五番歌合」、「●古今集巻第十九残巻(高野切)」(京都・酬恩庵一休寺に毎年米百石寄進することで入手した「墨蹟 梅溪字号」、富士茄子や大講堂釜と共に、前田家の三名物として秘蔵された「大名物 肩衝茶入 銘浅茅」をはじめ「大名物 唐物上杉瓢箪茶入」、「斗々屋茶碗 銘百万石」などの茶道具、「色絵鳳凰図平鉢 古九谷」などの古九谷や、「秋野時給硯箱」をはじめとする加賀時給、「銀象眼 牡丹文鏡」といった加賀の美術工芸の数々、御水尾天皇や小堀遠州との深い交遊を示す書状類など多彩な加賀文化の成果を紹介します。

### 第三章 江戸屋敷の成立

ここでは加賀藩江戸屋敷に関する資料を中心に展示します。主な作品としては、寛永十年(一六三三)、利常の嫡男光高が三代将軍家光の養女大姫を迎えるため新築された御殿に使われた「百工比照 金具類」の釘隠をはじめ、加賀藩江戸屋敷が記載されている「江戸図屏風」(複製)や本郷邸で使われていた出土遺物の金箔瓦、絵図などを展示します。

### 観覧料(常設展示室を含む)

個人		団体(20名以上)			
一般	1,000円	一般	800円	小学生	400円
大学生	600円	小中高生	300円	小中高生	200円

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧いただけます。  
 加賀百万石博覧会入場券持参の場合も、団体料金でご覧いただけます。



時給硯箱(右)・鏡(左)  
 江戸時代 十七世紀  
 伝清水九兵衛



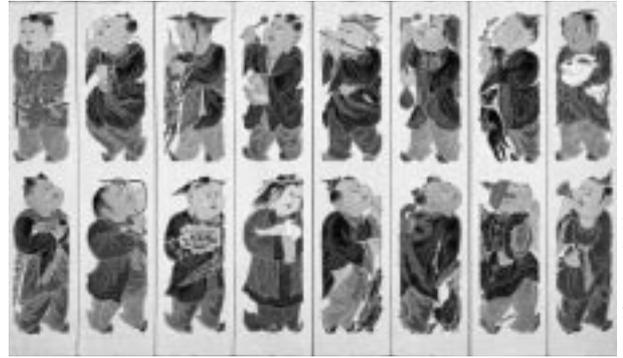
斗々屋茶碗  
 朝鮮李朝時代  
 銘百万石  
 十六世紀

常設展示室

# 主な展示作品

9月14日(土)~10月27日(日)

●=国宝      =重要文化財



童児遊ぶ 木村雨山

## 前田育徳会展示室

特集 加賀藩の美術工芸

武家手鑑

安土日記

荏柄天神縁起絵巻

アエナス物語図毛綴壁掛

真鳥羽入箆笥

清水九兵衛

内容は前号をご覧ください。

## 第1展示室

●色絵雄香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清

## 第2展示室

企画展 利家とまつ 百万石物語展 第2会場

## 第3・4展示室

1982年 私

カサブランカ

鴨居 玲

熱叢夢

赤とんぼ

高光一也

草笛

宮本三郎

特集 吉田富士夫―手品師の息づかい

第3展示室で開催。前号をご覧ください。

## 第5展示室

釉裏金彩大山蓮花文鉢

沈金箱「秋すだれ」

童児遊ぶ

金銀象嵌紅葉狩図香炉

大身槍 日本号写 附螺鈿拵

桑縁箴組風炉先

吉田美統

## 第6展示室

太夫

山の秋

原野

古九谷など古美術部門の一部も展示されています。

観覧料

十月二十七日までは全館統一料金となります。2頁をご覧ください。

由里本 出

坂根克介

玉井敬泉

野々村仁清



万曆赤絵大花瓶 中国明時代十六、十七世紀 那谷寺蔵



三彩金襴手双耳瓶 中国明時代十六、十七世紀 小松天満宮蔵

## 「利家とまつ 加賀百万石物語展」関連事業

### 講演会

10月 6日(日) 演題:「前田家と加賀文化」

講師:嶋崎 丞(当館館長)

午後1時30分~ 当館ホール(聴講無料)

### 土曜講座

10月 5日 「前田利常と後水尾天皇」

高嶋清栄(学芸専門員)

10月12日 「利家画像あれこれ」 村上尚子(学芸員)

10月19日 「かぶき者の美意識」 村瀬博春(学芸主査)

10月26日 「利家と戦国合戦」 末吉守人(普及課長)

いずれも午後1時30分~ 当館講義室(聴講無料)

### 列品解説

会期中の毎週水曜日、午前11時と午後2時に、展示室で学芸員による列品解説を行います。どなたでもご参加できますが、観覧料が必要です。

開催日: 10月2日(水)、9日(水)、16日(水)、23日(水)

美術館小史・余話

27

嶋崎 丞 当館館長



犀庵

先号で述べたように、西川文平氏からは草庵風の茶室「犀庵」の寄附を受けたが、この茶室と別館一階の「対青軒」とを、どう関連付けてどこに再建するかが次の課題となった。犀庵はもともと個人邸宅の茶室であり、精々入っても六、七名が限度。これでは今日のような大寄せの茶会に使用するには不向きである。そこで別館一階部分の立礼席を待合い席とし、これと連続して使用出来る方法を考えようということになった。幸い別館の後の部分に空き地があったので、まずそこに別館と並んで後ろ向きに犀庵を再建して、さらに別館との部分を細長い露地として作庭し、飛び石伝いで犀庵の躡口に至るように設計していただいた。今考えても非常にうまく出来上がったのではないかと思っている。

ただ犀庵の再建場所は別館の高い建物のすぐ脇というところで、周りは背の高い海鼠土塀で囲まれるため、冬の積雪時は大変で、露地とともにその保存管理の手当をするのは一苦労であった。しかしこうした形で茶室は見事に完成した。今程の公共茶室がまだなかった時代でもあったので、茶の湯の愛好者からは大いに歓迎され活用されて、今日の茶道隆盛の基を築いたのである。

さらにまた美術館の職員も、茶道を嗜む必要があるということ、毎週一回勤務終了後「対青軒」で、茶の湯の作法の稽古を行うことにもなった。指導は金沢一の先生に指導を受けるべきだということになり、故大島宗古さんに出稽古をボランティアに近い形をお願いした。しかし今思えば、随分と大胆なことをしたものだ。冷や汗をかく思いで一杯である。この稽古は三年間続けることができた。

茶室「対青軒」「犀庵」の設置(一)

展覧会回顧

プリズムのきらめきから

西田洋一郎 絵画空間



本県小松市出身で、長く海外で制作活動を行ってきた西田洋一郎氏の、初期から近作までの平面作品と、現在展開しているコンピュータグラフィックス(CG)による作品をミックスした展覧会でした。

展示室に暗室を設けて、コンピュータから出力するCGアニメーションをプロジェクトで投影し、さらに別のコーナーでは数十点のCG作品をモニター上でご覧いただくという、当館の常の展示とはひと味、ふた味違った構成に驚かれた方も多かったのではないかと思います。常でないことをするのはなかなかエネルギーのいるもので、アクリル画とこれらのCG作品とが、展示室で違和感なく配置できるのだろうか、展示にあればこれ思いを巡らしたものでした。

結局、初期作品から年代に沿って作家の歩みを追うという、オーソドックスな展示手法でご覧いただいたのですが、それがピタリときまりました。西田氏の仕事、必然性をもって、絵画からコンピュータ作品へと向かったのだと、作品群が雄弁に語ってくれたのです。

さて、六月二十日から七月二十二日までの約一ヶ月間、朝にコンピュータとプロジェクトに灯を入れてプログラムを走らせ、夕にこれらを落とし続けるという作業が続きますから、起動と終了の講習を行い、チームを組んで本展に望みました。トラブルもなく無事に一ヶ月間を終えたときは、ほっと安堵感が広がり、同時に、学芸員になり立ての頃に開いた展覧会の感触が思い浮んだのです。(二木伸一郎 学芸専門員)

貸出中の所蔵品

祥瑞山水文沢瀉形茶碗 景德鎮窯  
和蘭陀色絵葉菜水指 デルフト窯

計二点

展覧会 前田家三代が生きた桃山・江戸初期

茶の湯陶磁の展開

会期 九月十一日(水)～十月二十七日(日)  
会場 金沢市立中村記念美術館

県文 横繪図

俵屋宗達筆

計一点

展覧会 没後370年記念 角倉素庵

光悦・宗達・尾張徳川義直との交友の中で

会期 十月五日(土)～十一月十日(日)  
会場 大和文華館(奈良市)

色絵牡丹菊図平鉢 若杉窯

粟生屋源右衛門作

他一点 計四点

展覧会 江戸時代、『諸国』繚乱

会期 十月五日(土)～十一月十日(日)  
会場 鳥取市歴史博物館

松時絵飾箱

松田権六作

樺造盛器

川北良造作

他三点 計五点

展覧会 「日本のわざと美」展

重要無形文化財とそれを支える人々

会期 十月十八日(金)～十一月十八日(月)  
会場 佐野美術館(静岡県三島市)

# 第32回文化財現地見学

## 阪神の美術館散策

### 参加者募集

期 日 十一月十六日(土)～十七日(日)  
 一泊二日、宿泊は神戸市。  
 参加費 二四、〇〇〇円  
 (友の会会員以外の方は二五、〇〇〇円)  
 募集定員 四十五名(対象は原則として成人)



昨年度見学地・天寧寺(福知山市)



同・金剛院(舞鶴市)



同・舞鶴市立赤れんが博物館

### 見学予定地

逸翁美術館(池田市)

昭和三十三年開館。阪急東宝グループ創始者小林一三(号逸翁)の、古美術を中心としたコレクション約五千点を所蔵。

企画展「開館45周年記念名品展」

満願寺(川西市)

神龜年間(七二四～二八)に創建。のち歴代源氏一門の崇敬を集める。九重塔(重文)、千手観音、薬師如来、聖観音、金剛力士像(以上原文)他。

柿衛文庫(伊丹市)

昭和五十九年開館。酒造家で俳文学者の岡田利兵衛(号柿衛)の俳諧関係資料約九千五百点を収蔵。日本三大俳諧コレクション(他の二つは東大図書館と天理大学図書館)の一つ。

企画展「俳人の手紙」

伊丹市立美術館(伊丹市)

昭和六十二年開館。十九世紀フランス美術を代表する作家の一人、オノレ・ドミエの諷刺版画約二千点のほか、同時代の諷刺作家たちの作品も多数収蔵。柿衛文庫に隣接。

企画展「開館15周年記念 明治の面影・フランス人画家 ビゴーの世界」

相楽園(神戸市)

元神戸市長小寺謙吉の先代が明治末期に築造。神戸唯一の日式庭園。船屋形、旧小寺家厩舎、旧八ツサム住宅(以上重文)

催事「菊花展」

神戸市立小磯記念美術館(神戸市)

平成四年開館。洋画家小磯良平の油彩・素描・版画などの約二千点を所蔵。中庭にはアトリエも移築。企画展「開館10周年 小磯良平回顧展」

香雪美術館(神戸市)

昭和四十八年開館。朝日新聞創設者村山龍平(号香雪)の蒐集した書画、仏教美術、茶道具、漆工芸、武具などを中心に所蔵。春季と秋季に展覧。

企画展「茶会の懐石・炭道具展」

織部・志野・乾山・仁清など「芦屋市谷崎潤一郎記念館(芦屋市)

昭和六十三年開館。文豪谷崎潤一郎の遺族から寄贈された関係資料を中心に所蔵。

企画展「棟方志功と谷崎潤一郎」

### お申し込みの方法

例年参加ご希望の方が大変多いため、事前に参加希望者全員のお立ち会いのもとで厳正な抽選を行い、申し込み者を決定させていただきます。当選の方はその場でお申し込みを受付いたします。今回の抽選会は十一月十日(日)の予定です。ご希望の方は当日午後十時三十分までに当館ホールへ直接「来場下さい」。

### ご注意

抽選会出席者以外の方のお申し込みは一切お受けいたしません。  
 参加希望者一名につき、必ず一名「来場下さい」。  
 友の会会員の方は会員証を必ず「持参下さい」。  
 当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は必ず当館へご連絡していただきます。その後当館より、キャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りしていきます。  
 二日間にわたり長時間のバス移動があり、また相当の距離を歩くこととなります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合、特に足腰に自信のない方は、今回の参加をご遠慮下さい。

## 企画展示室

### 第49回日本伝統工芸展金沢展

十一月一日(金)～十日(日)

(第7・8・9展示室)

陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・その他の工芸の七部門の作品約三百五十点を展示します。

今回の石川県内入選者数は陶芸三十五、染織四、漆芸三十二、金工八、木竹工十四、人形二、その他の工芸一、計九十六人でした。そして陶芸の武腰潤氏が優秀賞の朝日新聞社賞、金工の宮園土朗氏と木竹工の川北浩彦氏がそれぞれ日本工芸会奨励賞を受賞し、鑑査委員・特待者の中から選ばれた日本工芸会保持者賞は、漆芸の小森邦衛氏が受賞しました。

本展では重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)の先生方の作品も展示されます。また講演会、列品解説も予定しています。

入場料  
 一般六〇〇円 大学生四〇〇円 高校生以下無料  
 団体料金は各一〇〇円引

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

（美術館の本）

- 石川県立美術館所蔵品図録 税込定価(円) 三、五〇〇
- 前田育徳会展示室 開館記念名宝展 一、五〇〇
- ― 古典と現代― 花鳥風月展 一、五〇〇
- ― 加賀文化の華― 前田綱紀展 二、〇〇〇
- ひと・ヒト・人物を描いて：南政善回顧展 二、〇〇〇
- 石川県の人間国宝展 二、〇〇〇
- 西山英雄展 雄大な自然を描く日本画の巨匠 二、〇〇〇
- 石川県の工芸 ―江戸時代から現代まで― 二、〇〇〇
- 隅谷正峯展 ―日本刀その神秘なる彩り― 二、〇〇〇
- ― 前田育徳会の名宝― 百工比照 一、五〇〇
- 開館10周年記念特別展 日本美の心 二、〇〇〇
- 石川の美術 ―明治・大正・昭和の歩み― 三、九〇〇
- 四巨匠 中川一政・宮本三郎・高光一也・南政善の世界 二、〇〇〇
- 戦後日本の具象美術 ―見えるものへのこだわり― 二、二〇〇
- 加賀大乗寺の名宝と月舟宗胡 一、〇〇〇
- 時絵・人間国宝 寺井直次の世界 二、〇〇〇
- ― 石川県立美術館所蔵― 茶道美術名品図録 二、五〇〇
- 加賀藩 代藩主前田利長の菩提寺 瑞龍寺展 二、三〇〇

- 15〜20世紀のロシア美術 イコンと絵画 二、〇〇〇
- 日本のわざと美展―墨藝文化財とそれを支える人― 二、〇〇〇
- 前田利為と尊經閣文庫 二、〇〇〇
- 工芸作品と図案 ―創造への思考― 二、〇〇〇
- 前田利家没後400年利家が生きた 桃山時代の美術 二、五〇〇
- 没後25年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎 二、三〇〇
- 初公開 欧州随一の日本美術コレクション ランゲン夫妻の眼 二、〇〇〇
- ― 石川県立美術館所蔵 九谷名品図録(改訂版)― 二、〇〇〇
- 彫刻家 吉田三郎展 二、〇〇〇
- 花の様式 ナンシー派展 二、〇〇〇
- 花と緑の名品展 ―自然との対話― 二、〇〇〇
- 日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界 二、二〇〇
- 最新刊 二、三〇〇
- 利家とまつ 加賀百万石物語展 二、三〇〇
- ミュージアムショップで販売中
- 郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。
- ( ☎076-2331-7580 )

Q 喫茶室と入館料との関係は？

A 喫茶室は入館料なしで利用できるのですか？

A 当館で料金が必要となるのは展示室に入る時だけです。喫茶室のご利用には、入館料はいりません。喫茶室は正面受付後方の中央ロビー横にあり、お待ち合わせにも便利です。美術館開館日にご利用いただけます。時間は午前九時三十分〜午後四時三十分。お食事はトーストのみ、ご用意しています。

美 Q&A

Q 展示室での写真撮影はなぜだめ？

A 展示室での写真撮影やスケッチ、またペンでのメモなどはなぜ禁止されているのですか？

A 国内では大多数の館で写真撮影が禁止されています。著作権保護の観点から、作品そのものを撮影することができないためです。展示室でスケッチをとったり、作品を模写することもできません。またメモをとる場合、何かのはずみでインクが飛び散ってしまうことを恐れて、鉛筆やシャープペンシルでしか、メモがとれないことになっていきます。当館では、絵画のガラスやアクリル板をはずして直接展示していますので、やむを得ないことのないように、傘や大きなカバンなども、ロッカー（無料）に預けていただいています。

図書閲覧室NOW

「利家とまつ」関連本を開架

今月は先月に続いて、「利家とまつ 加賀百万石物語展」関連の、左記の図書を取り上げます。

は、旧館時代に企画された展覧会の図録です。は、利家と利家に関係した人々の遺品や資料、約百六十件を集めたもので、特に、数少ないといわれる利家の真蹟に関する問題研究のため、利家の書状を多く展観しました。は、文化事業に意を注いだ利常の業績を、約百三十件の文化財、美術工芸品などによって、たどろうとしたものです。は、高岡市立博物館の開館二十周年記念の展覧会図録です。二代藩主利長が後年、富山城に隠居し、高岡の町を築き上げていったという経緯から、利長の人となりを再認識しようとするもので、約百十件の関連文化財・資料が集められました。は、尾山神社の祭神である利家公の四百年祭にちなみ、その実像、時代背景を浮き彫りにしようとするもので、各界の第一人者によって分担執筆されました。は、利家没後四百年を記念し、前田育徳会に所蔵されている、利家に関する深いものを約百点選んで作成されたものです。前田育徳会は、前田家に伝世した数々の文化財を保存管理している財団ですが、その蔵品は史料的价值が高いものが多いことで知られています。は、昨年、大河ドラマの放映にちなみ企画された展覧会の図録で、利家とまつが生きた時代と利家夫妻をめぐる人々に焦点をあて、肖像画や文書・遺品など約百五十件が展示されました。

- 前田利家展 / 1973 / 石川県美術館
- 前田利常展 / 1976 / 石川県美術館
- 前田利長展 / 1990 / 高岡市立博物館
- 図説 前田利家公 / 1999 / 尾山神社
- 前田利家関係蔵品図録 / 1999 / 前田育徳会
- 利家とまつをめぐる人々 / 2001 / 石川県立歴史博物館

開室時間は午前九時三十分〜午後四時三十分。貸出し、「コピーサービス」は行っておりません。



脇田和氏

企画展TOPIC

「鳥と語る 詩魂の画家 脇田和」展

脇田和氏は明治四十一年六月の生まれですから、今年九十四歳、おそらく画壇の最長老と言っていいのではないでしょう。小磯良平、猪熊弦一郎らと新制作派協会を結成されたのが昭和十一年、それ以来半世紀以上をこの会を舞台に作品を発表し続け、しかも、今も現役バリバリの旺盛な創作活動でファンの眼を愉ませてくれています。

脇田氏の世界といえは思い浮かぶのは鳥と子供。これらを題材とする詩情豊かな作品は、抒情であると同時に堅固な構成を持ち、様々な世代から幅広い支持を得ています。その脇田展を開くことは長い間の宿願でした。

当館で開くワンマンショーには、「本県ゆかりの作家」という不文律があります。それはこれまで油彩部門で開いてきた「高光一也」「南政善」「宮本三郎」「中川一政」「鴨居玲」の各展覧会や、日本画、彫刻、工芸で開かれた諸展覧会を思い起こしていただければ、なるほどとうなずかれるのではないのでしょうか。

その中で、脇田展は未踏峰の巨峰と言つべく、どうアプローチすればいいかと、頂を眺めては思いあぐねていたのです。今年度ようやくその願いがかなったというわけです。

脇田氏と本県とのゆかりを述べますと、脇田氏は明治維新前代々加賀前田家の上級藩士として金沢、兼六園の近くに居を構え、先祖には町奉行をつとめる人なども輩出したなかなかの家柄で、明治十年代に東京に移られたのです。

脇田氏自身本県とのゆかりを意識されていたようで、戦前、在京の石川県人の展覧会に脇田氏は中川一政らとともに名を連ねて出品していました。また志賀町出身の南政善とは同年生まれなのですが、共に若きホープとして活躍した二十歳代に「麓棠社」というグループを組んで親交を結んでいました。

さて、脇田和展は明年一月四日から開催いたします。既に作品リストも固まり油彩・素描・版画の代表作約一四〇点で脇田氏の画業をご覧いただくべく、準備を進めております。この展覧会トピックスでは十二月号まで、三回にわたって、脇田氏と作品を紹介していきますが、今回はその前口上を述べているうちに紙面が尽きたようです。次回は脇田氏の画業について詳しく述べたいと考えています。

（二木伸一郎 学芸専門員）  
この記事は三回の連載予定です

「鳥と語る 詩魂の画家 脇田和」展  
一月四日（土）～二月一日（日）

十月の行事案内 《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月日	行事	内容	会場
10/5(土)	土曜講座	前田利家と後水尾天皇 (高嶋清栄 学芸専門員)	講義室
10/6(日)	講演会	「前田家と加賀文化」 講師 嶋崎 丞(当館館長)	ホール
10/12(土)	土曜講座	利家画像あれこれ (村上尚子 学芸員)	講義室
10/13(日)	月例映画会	時絵 寺井直次の卵殻のわざ(30分) 木の生命よみがえる 川北良造の木工芸(33分) 講師 嶋崎 丞(当館館長)	ホール
10/19(土)	土曜講座	かぶき者の美意識 (村瀬博春 学芸主査)	講義室
10/20(日)	CDコンサート	渡辺俊幸 NHK大河ドラマ「利家とまつ」のテーマ(約50分) (末吉守人 普及課長)	ホール
10/26(土)	土曜講座	利家と戦国合戦 (末吉守人 普及課長)	講義室
10/27(日)	月例映画会	重要無形文化財 輪島塗に生きる(35分) 加賀友禅 木村雨山(20分)	ホール

「利家とまつ」関連事業については3ページをご覧ください。  
今月の全館休館日は十月二十八日(月)～三十日(水)です。

各地の展覧会

- 開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。
- 昭和の桃山復興 1 陶芸近代化の転換点 9/28～11/24
  - 裏立近代美術館 美術館(東京都千代田区) 〇三三 三二一 七七八(一)
  - 上村松園・鍋木清方展 10/4～11/4
  - 富山県水墨美術館(富山市) 〇七六 四三三 三七一九
  - 開館十周年記念 ミロ展 1918-1945 10/4～12/1
  - 愛知県美術館(名古屋市東区) 〇五二 九七一 五五一(一)
  - 日本人と茶 1 その歴史・その美意識 1 10/14まで
  - 京都国立博物館(京都市東山区) 〇七五 五四一 一一五(一)
  - 第54回正倉院展 10/26～11/11
  - 奈良国立博物館(奈良市) 〇七四 二二二 七七七(一)

次回の展覧会

- 名物裂の精華 (前田育徳会展示室)
- 石川県の名宝 (第2展示室)
- 動物を描く 明治以降の日本画家による (第6展示室)
- 十月三十一日(木)～十一月二十日(水)



## 鴉茶地型紙花紋散縫箔 前田家伝来

江戸 18世紀

丈142.9 衿68.6 (cm)

その昔、菟名日処女という女が、二人の男に求愛されました。板挟みとなった女は苦しみ、とうとう生田川に身を投げてしまいます。残された二人の男は、女の眠る塚の前で刺し違え、その後を追うのです。

本装束の畳紙には、「求塚 桜川 老女もの等若人候へ八童子二」と記されています。「求塚」は、この処女塚の伝説を題材に成立した能曲です。女はやがて亡霊となつて塚の中より現れ、火炎の渦巻く地獄の苦しみを語り始めます。本装束はその女役に用いるよう、畳紙で指示しているのです。

鴉茶地の繻子地に、配される草花模様はすべて刺繍で表されています。梅・蒲公英・桜・藤・紫陽花・桔梗・竜胆・菊など、あらゆる季節の草花が施されています。それらは丸形や扇面形をした背景で囲まれており、まるで窓からそれぞれの景色を眺めているように感じられます。

加賀藩主前田家では、五代藩主綱紀の時代より宝生流を愛好し始めますが、十二代斉広・十三代斉泰の時代に最盛期を迎えます。伝存する能装束のほとんどがこの時期に制作されたものです。共に残された畳紙より、演じられた能曲や稽古用であつたことなど、その使用目的を知ることができます。

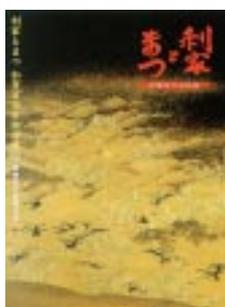
もう一曲、その名が記される「桜川」は、貧しさより我が子を買った母親が、悲しみに暮れながら子を追う物語です。物狂いになった母が、桜川の水面に散る桜を必死に綱ですくう場面にて、この柔らかな鴉茶色が狂女の身を包むのです。

## ミュージアムショップ通信

そろそろ二十四節気の寒露。野の草には冷たい露が宿つて、秋の深まりを感じさせる頃です。もう暦の上では晩秋になってしまふんですね。なんと早い…。

それにしても大河ドラマの人気はさすがです。先月から始まった「利家とまつ」展は、引きも切らずの大人気。オープニングの日には、村井又兵衛役の場浩司さん、麻阿役の佐藤藍子さん、石田三成役の原田龍二さんらも駆け付けて下さって、いやあ、会場は盛り上がりました。

というわけで、今月は真打ち登場「利家とまつ」展図録です。まず目を引く表紙の重文「時絵和歌の浦図見台」のアップがすごい。展示室でもちょっとここまで見られませんよ。中身の方はというと、利家ゆかりの文物をはじめ、戦国の世をかけた武將たちの画像や書状などがぎっしり。さらに古九谷や加賀時絵、屏風絵など、百万石の城下町に花開いた加賀文化のエッセンスがたっぶり味わえます。詳しい作品解説が付いているのもうれしいですね。書状などの釈文まで全部入ってます。観覧の記念品に文句なしのいち押し！。



『利家とまつ 加賀百万石物語展  
~前田家と加賀文化~』  
(平成14年刊 定価2,300円)

### 休館日

十月二十八日(月)~三十日(水)

### 石川県立美術館だより

第二二一八号 平成十四年十月一日発行

〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(一三三)七五八〇

FAX 〇七六(一三四)九五五〇